

2011年度

科目名	文化財研究法1B				
担当教員	犬木 努				
配当	文財1			コード	32030
開期	後期	講時	水曜日2限	単位数	1
授業テーマ	文化財学入門編(2)―文化財学とはどのような学問か？				
目的と概要	文化財学科への入学者の大半は日本史が得意であった者、あるいは日本史が好きな者が多いはずであるが、大学での「文化財学」は必ずしもその延長線上にあるわけではない。中学・高校での日本史の授業は、一般に、基礎知識の習得と「定説」の理解に重きを置いているが、大学の講義では、その「定説」そのものを疑うところから出発する。「定説」の根拠はどこにあるのか、そこに問題点はないのかどうか、「定説」はいかにして形成され、またいかにして覆されてきたのか。単なる知識習得を目指すのではなく、文化財を「研究する」「学ぶ」「知る」「考える」ということ、これらの意味について一緒に考えていきたい。				
成績評価法	平常点(30%)およびレポート(20%)、授業時の発表内容(50%)によって行う。				
テキスト	使用しない。授業時に適宜プリントを配布する。				
参考書	授業中に適宜指示する。				
履修に当たっての注意・助言 /準備学習	授業中に参考図書を指示された場合には、事前にきちんと読みこなしておくこと。				
講義計画					
講義形式と発表形式を併用します。適宜、課題を割り当てて、発表してもらいます。 以下のようなテーマについて数回ずつ進めていきたいと考えています。 1. 考古学・考古学の概説書を読む：「定説」はいかにして形成されるか？ 2. 歴史学・考古学の論文を読む：「根拠」はどこにあるのか？ 3. 発掘調査報告書を読む：出発点としての「遺跡」 ※授業回数は後期に隔週で、7～8回を予定している。 ※各々の項目を数回にわたって行う場合もある。また順番・内容については変更する場合がある。					